

学び合いのワークショップ

～持ちよろう 聴き合おう ゆるくつながろう～

令和5年12月20日（水）午後6時30分～午後8時30分 @セッション杉並講座室

【目的】

社会教育士や地域で学びの担い手として活動している方を対象に、さまざまな立場・分野の人々がそれぞれの活動から得た学びを持ちよって聴き合うワークショップを開催しました。地域で活動している人同士がゆるやかにつながり、自身の活動を充実させたり、活動をひろげたりするヒントやきっかけを得ることを目的にしています。

【講師】 東京学芸大学教育学部
教育学講座生涯学習分野
准教授 倉持 伸江

【参加者数】 40名

1. ラウンドテーブルとは ～実践を語り、聴き合う～

講師の倉持先生から、ラウンドテーブルは、お互いの実践経験を語り合い・聴き合うことを通して共同でふりかえり（省察）、学び合い、つながり合う場だということをお教えいただきました。そして、ラウンドテーブルで得られる3つのことをお聞きました。

- (1) 省察による学び
- (2) 学びと活動のサイクル
- (3) 学び合うコミュニティの創造



2. ラウンドテーブルの体験

まず、自身の活動のキーワードを書き出した後、語るとき、聴くときのポイントを教えていただきました。

<語るときのポイント>

- ・ 経験を具体的に話す。自分の思いや関心、考えてきたこと、問題意識や情熱なども話す。抽象論や一般論、ベキ論にはしない。
- ・ 結論やまとめ、「オチ」、成功・失敗といった意味づけは必要ない。等

<聴くときのポイント>

- ・ じっくりと耳を傾け、身体全体で「聴く」ことを心がける。
- ・ 聴き手の役割は、アドバイスや指摘ではなく共同学習者、共同探究者。語り手の話をさえぎらないよう、注意する。等



▲ラウンドテーブルを体験

その後、4～5名のグループで、それぞれの経験を約10分ずつ聴き合い、シェアしました。語るとき、聴くときのポイントを意識し、語り手が主役となって聴き合いました。

3. ふりかえり

最後に、ラウンドテーブルの体験を通して気付いたことや再認識したことをふりかえり、今後の展望を描くため、改めて自分の活動を表すキーワードを書き出し、グループ内で共有しました。